

人口ビジョン・総合戦略骨子(案)

資料 1

～豊かなくらしをめざして～

第2回

三木市創生計画策定検証委員会

【目次】

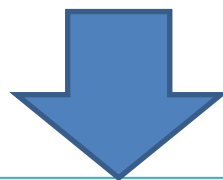
1. 三木市における地方創生計画のビジョン	1	3. 総合戦略	
2. 人口ビジョン		(1) 基本方針	15
(1) 現状と特徴	2	(2) コンセプト	
(2) 現状からの推計	6	(3) 5つの重点施策	
(3) 「総合戦略」をふまえて想定した2060年の 三木市の総人口	13	①高速道路を活用したまちの活性化	16
		②グリーンピア三木を活用したCCRC	17
		③緑が丘の再生	18
		④エコタウンの推進	19
		⑤神戸電鉄栗生線の活性化と存続	20
		(4) 重点施策のスケジュール	21

1.三木市における地方創生計画のビジョン

三木市の地方創生計画は、避けて通れない人口減少に対応しつつ、次の考え方により取り組みます。

三木市の地方創生の基本的な考え方

- ①人口減少のカーブを緩やかにしつつ世代間バランスのとれたまちをつくる
- ②人口減少の中で暮らしの質を低下させず、今住んでいる人やこれから生まれてくる子どもたちが豊かさを実感できるまちをつくる
- ③三木の暮らしの豊かさに魅せられて市外から人が集まるまちをつくる



「暮らしの豊かさを実感し、
いつまでも住み続けたいくなるまち」
をめざします。

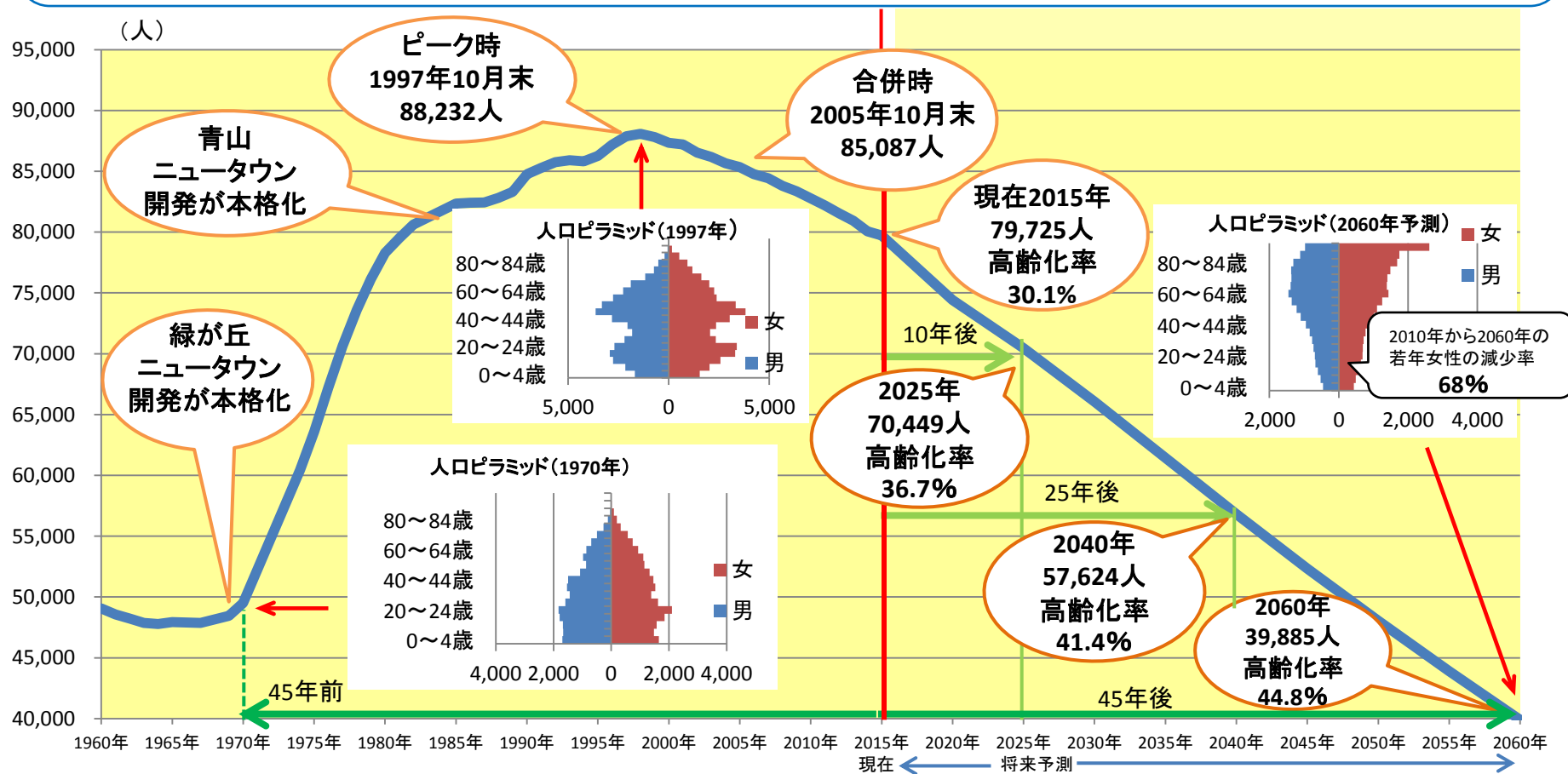
2.人口ビジョン

(1)現状と特徴

①人口推移と予測

三木市の人口は、1970年(昭和45年)頃から緑が丘などのニュータウン開発によって急激に増加。
しかしながら、若者の市外流出や出生数の低下などにより1997年(平成9年)10月末の人口88,232人をピークに
減少の一途をたどっています。

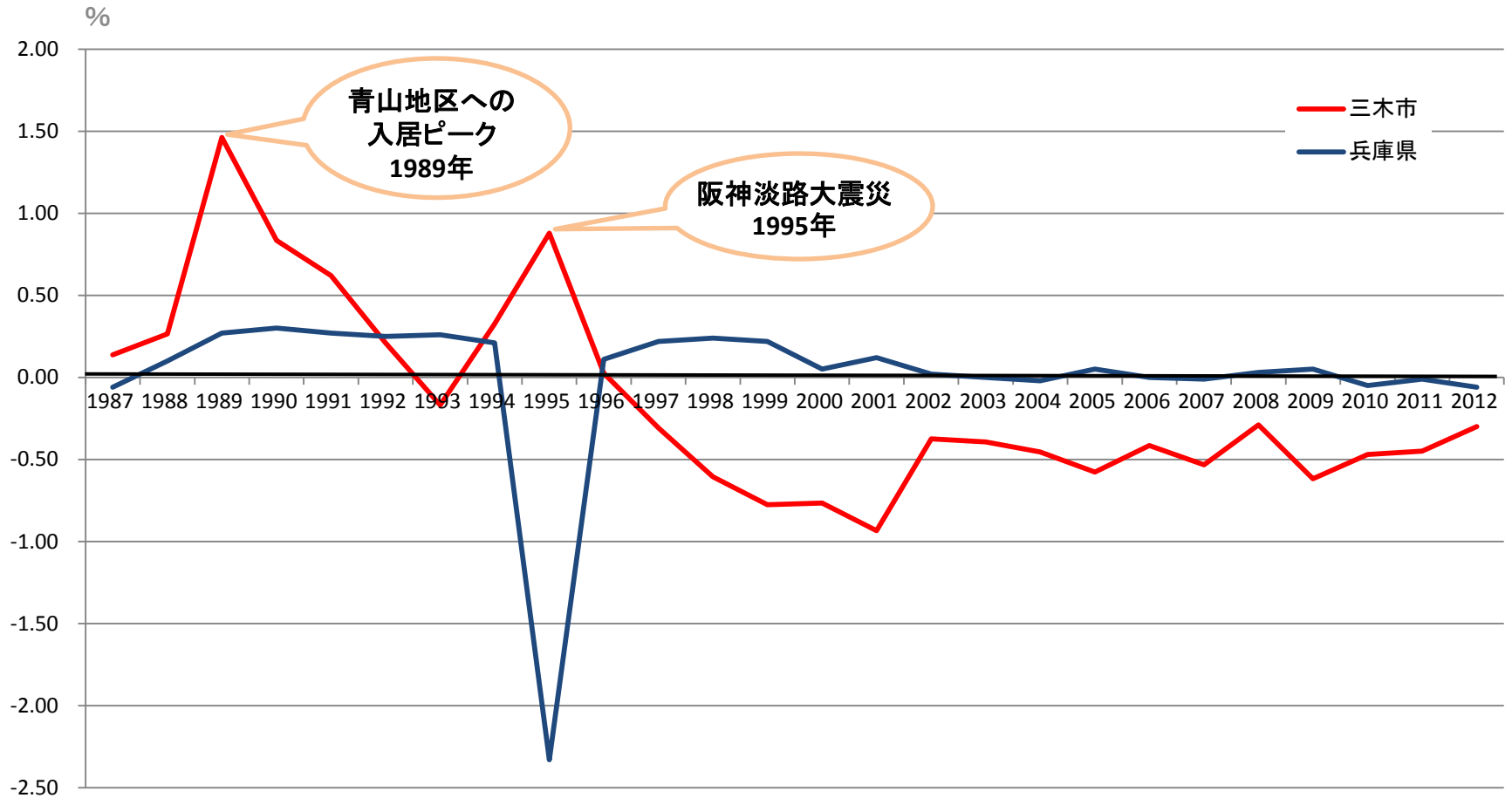
現状のまま推移した場合、45年後の2060年には、**高齢化率が約45%、人口約40,000人**と予測されます。



1960-2015年: 住民基本台帳(各年3月末)
2015年以降: 国立社会保障・人口問題研究所推計

②社会増減率の過去の推移

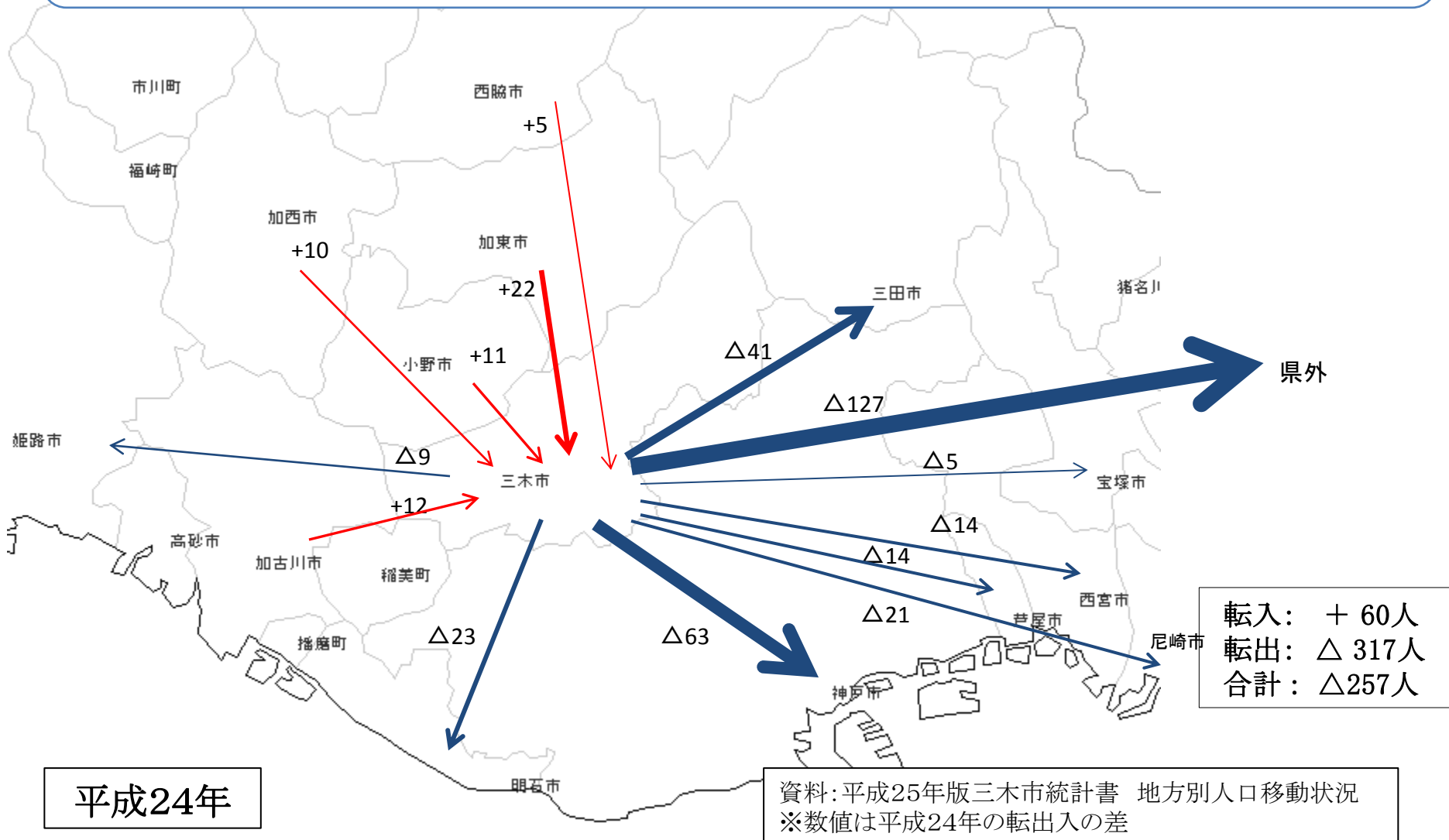
三木市では、1995年の阪神淡路大震災での一時的な転入超過以降、常に転出超過が続いています。一方、県全体では、阪神淡路大震災時に急激な転出超過があったものの、2002年までは転入が超過しており、その後の社会増減は安定しています。



1960-2012年:住民基本台帳(各年3月末)

(参考)転出入の状況

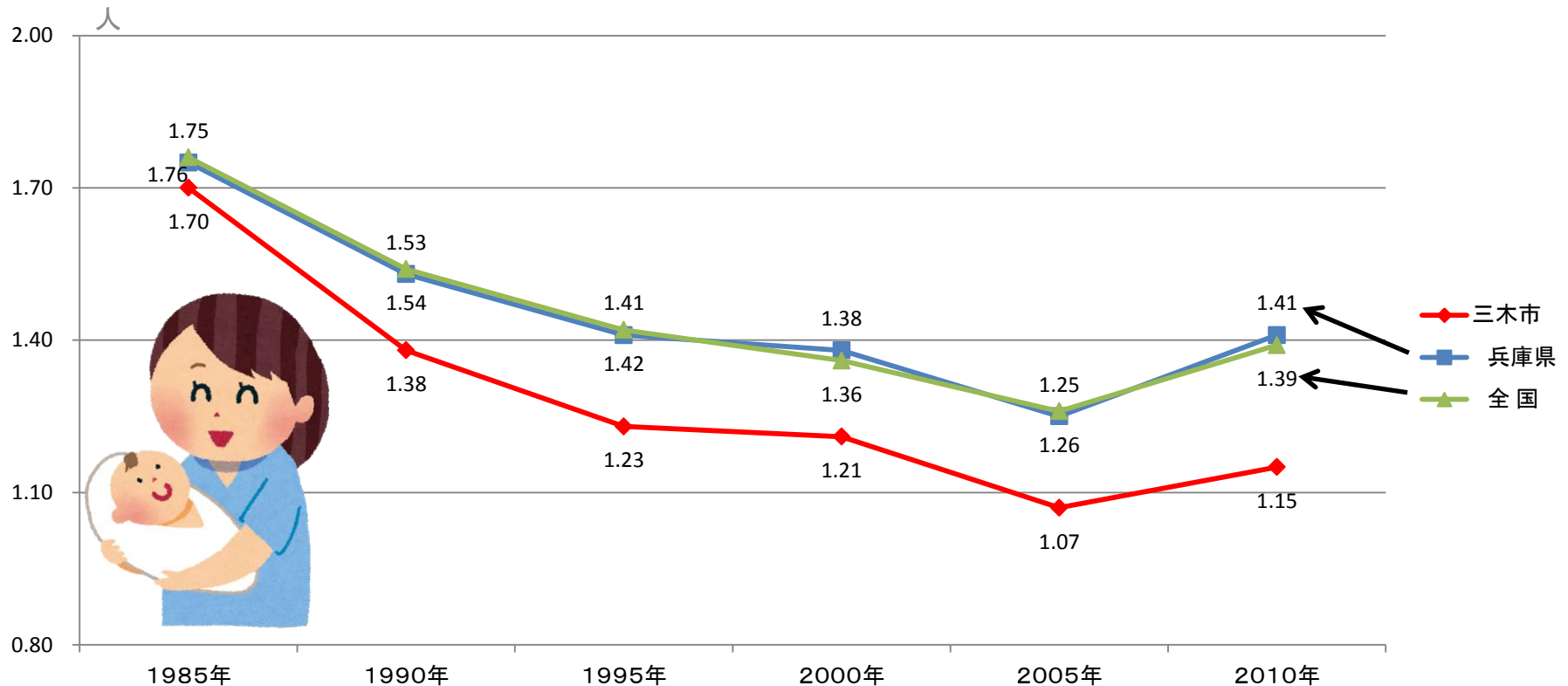
三木市は北西部からの転入の受け皿になっている。一方で、三木市からの転出は、県外が最も多く、次いで神戸市及び阪神地域への転出が多い状況にある。



③合計特殊出生率の過去の推移

三木市の合計特殊出生率は、1985年頃は全国や兵庫県の出生率と同程度でしたが、その後に差が広がり始め、2005年には県内最下位となりました。

2010年には、出生率は回復していますが、全国や県との差は広がり、県内最下位の状況になっています。



兵庫県内での順位（29市中）

	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
三木市	23	25	27	28	29	29

※順位は市町村合併を考慮したもの

出典：国勢調査

④未婚率の状況

三木市の未婚率は、男女ともに25歳～39歳においては全国や兵庫県の平均より高く、特に30代前半の女性の未婚率は全国平均と比べて6.3ポイントも上回っています。

また、男性においては30代前半で半数以上が未婚という状況になっています。

女性の5歳ごとの未婚率の状況
(年齢に占める割合)

(単位: %)

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
全国	98.9	87.8	58.9	33.9	22.7	17.1	12.4
兵庫県	98.9	89.2	60.7	34.6	22.5	17.0	12.5
三木市	99.4	91.0	64.8	40.2	25.7	17.0	11.0

男性の5歳ごとの未婚率の状況
(年齢に占める割合)

(単位: %)

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
全国	99.0	91.4	69.2	46.0	34.8	28.0	22.0
兵庫県	98.8	91.8	68.9	43.8	31.7	24.8	19.1
三木市	99.4	94.2	74.6	51.5	36.5	27.8	19.3

(2) 現状からの推計

①社会・自然増減の県内比較

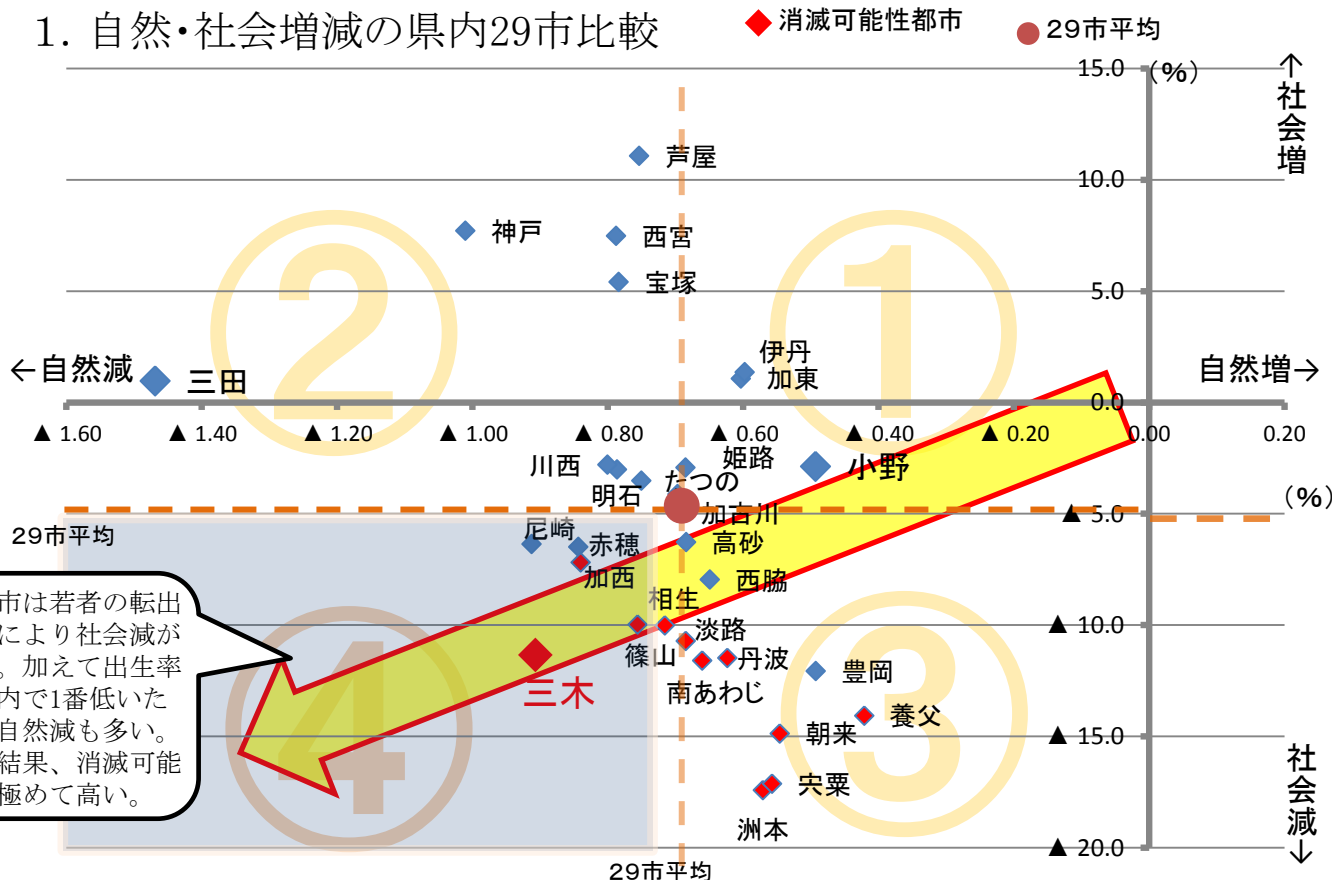
～2005年から2010年の5年間の状況から推測される2040年時の人口分析～

図の左下方向に位置するほど(④の方向になるほど)人口減少の傾向が強くなります。

三木市は④にある他市と比較しても社会減、自然減ともに一番多く、消滅可能性が最も高い状況にあります。

また、消滅可能性都市は平均年齢と相関関係にあり、平均年齢が29市平均を超える13市のうち、11市がこれに該当しています。

1. 自然・社会増減の県内29市比較



2. 市民平均年齢

1	◆ 養父市	50.67
2	◆ 淡路市	50.39
3	◆ 朝来市	49.06
4	◆ 南あわじ市	48.93
5	◆ 相生市	48.68
6	◆ 洲本市	48.48
7	◆ 篠山市	48.18
8	◆ 丹波市	47.95
9	◆ 豊岡市	47.79
10	◆ 宍粟市	47.72
11	◆ 三木市	46.92
12	◆ 西脇市	46.89
13	◆ 加西市	46.69
14	◆ 赤穂市	46.06
15	◆ 川西市	45.80
16	◆ 芦屋市	45.40
17	◆ 尼崎市	45.37
18	◆ たつの市	45.28
19	◆ 神戸市	45.03
20	◆ 宝塚市	44.49
21	◆ 小野市	44.15
22	◆ 明石市	44.03
23	◆ 加東市	43.99
24	◆ 高砂市	43.86
25	◆ 姫路市	43.62
26	◆ 加古川市	43.42
27	◆ 伊丹市	42.67
28	◆ 西宮市	42.53
29	◆ 三田市	42.34

29市平均
46.08歳

(2010年
国勢調査)

・横軸の自然増減は、「2030年までに合計特殊出生率が2.1に回復した場合における2040年の推計人口」に比べ「社人研推計人口」がどの程度増減したかを表す。
・縦軸の社会増減は上記の出生率回復を踏まえる中で、かつ「人口移動について転入と転出が2010年から均衡した場合における2040年の推計人口」に比べ「上記の出生率が回復した場合における2040年の推計人口」がどの程度増減したかを表す。

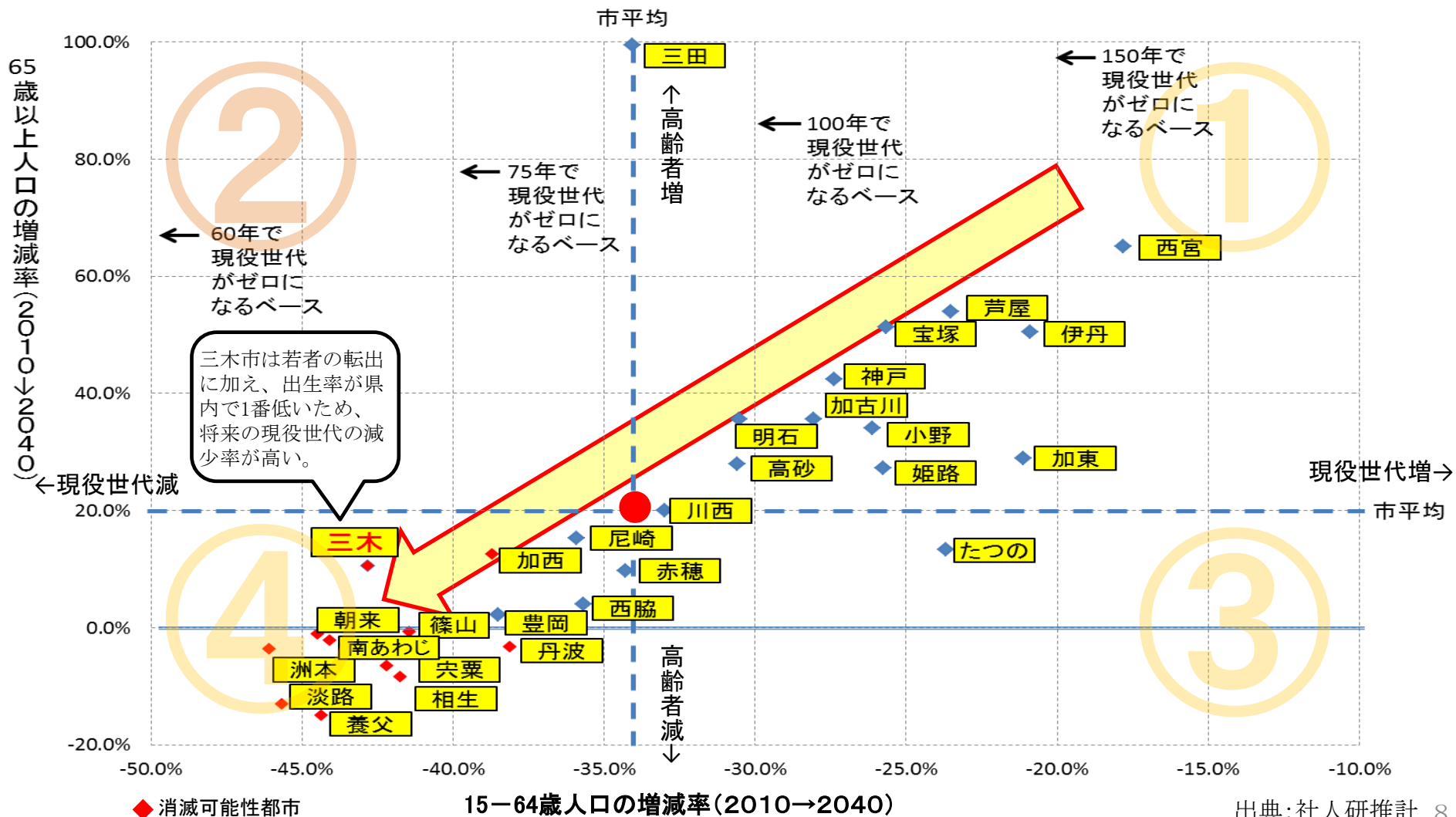
※内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供シミュレーションより

②現役世代の減少と高齢者の増加との県内比較

～2005年から2010年の5年間の状況から推測される2040年時の人口分析～

図の左下方向に位置するほど(④の方向になるほど)現役世代が減るとともに、高齢者まで減っていき消滅可能性が高くなる傾向が強くなります。

三木市は④にある他市と比較して現役世代が減少する一方で、高齢者の増加率が高いことから、人口バランスがさらに悪くなる可能性が最も高い状況にあります。この傾向が続くと、70年後には現役世代は居なくなると予測しています。



③三木市の人口減少の原因

三木市では、出生率の低下と合わせ、若者の都市部への流出などにより、特に若者世代の人口の減少が顕著になっています。

自然減

○出生率が1.15と県内一低い

○高齢者が多いため死亡件数が多い

・未婚率(25～39歳)が県平均に比べて高い
(女性で4.3%、男性で6.1%)
その要因としては、持ち家率が県内3位と高く家族と同居し、結婚しない若者が多いことが考えられる。

・若年者の転出超過の要因の一つとして、市内に若者が求める集合住宅や賃貸物件が少なく、家賃も高いことが考えられる。

社会減

○若年者の市外転出が多い

- ・若年男性(20歳～35歳)
- ・若年女性(20歳～39歳)

出典:2009年、2014年 住民基本台帳

○若年者の転入が少ない

○若年者のUターンがない

参考:市民課窓口アンケート(平成25年) 単位:人

	転入(A)	転出(B)	差(A-B)
結婚	157	317	△160
就職・転勤・ 転職	363	468	△105
転居	62	124	△62
進学	15	27	△12
計	597	936	△339

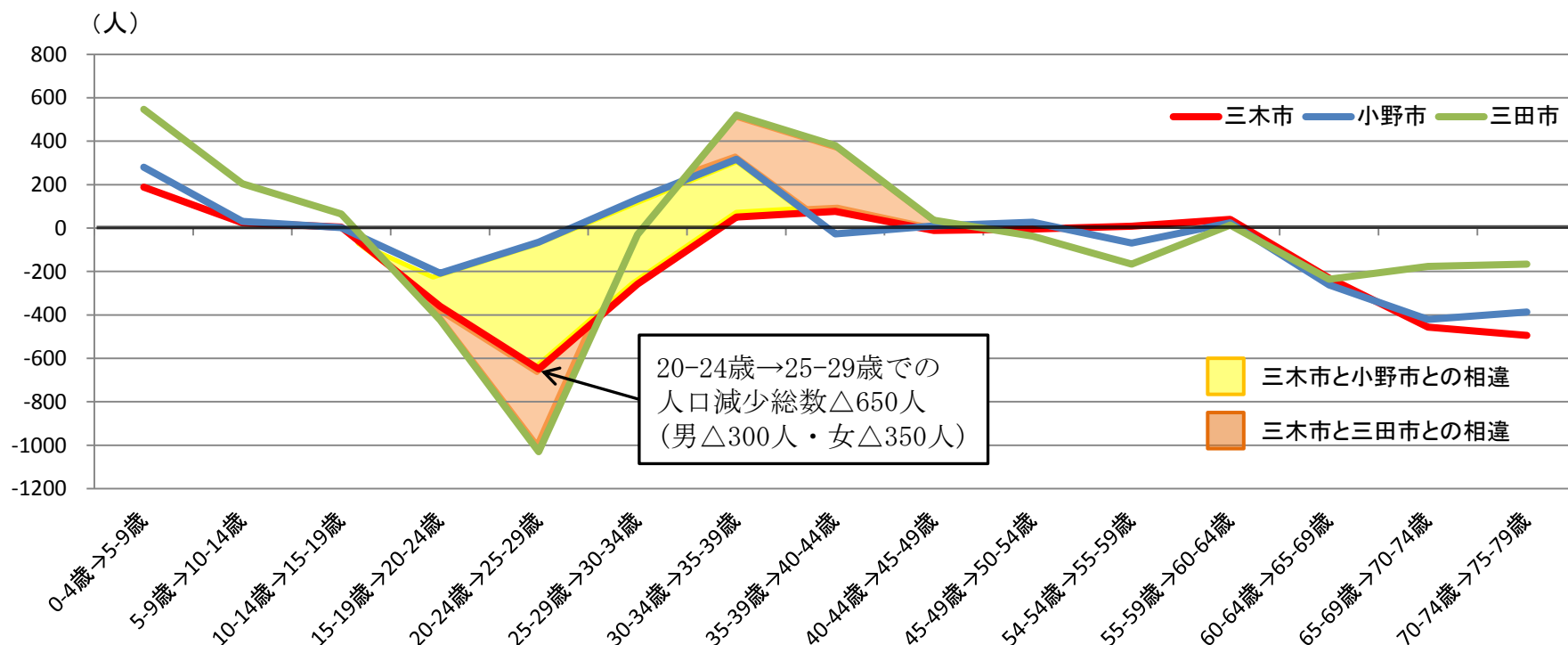
就職等で100人多く転出し、結婚や賃貸入居、進学は転出が約2倍超過となっている。

(参考)隣接市との比較(2009年から2014年の年代別人口動態比較)

三木市においては、20歳代前半の世代が5年後において減少し転出超過となっている。加えて、子どもを産む若い世代が少なくなることと、子育て世代が転入していないことが人口減少の大きな要因と考えられます。

小野市は、全世代において転出入のバランスがとれており、特に三木市に比べ20代の減少が少ないため、子どもの数が減らずに人口を維持しています。

また、三田市は三木市と比べ、子どもが産まれてから三田市に転入している子育て世代が多いことから、子どもや子育て世代の増加が多い状況にあります。



資料:2009年と2014年の住民基本台帳に基づき、5年間の人口増減を試算。
 相対評価をするにあたり、各市の人口数が異なるため、相対的に人口を三木市の8万人と仮定して試算した。

④2060年の総人口(3つのケース)の想定

国においては、出生率を段階的に2.0人まで向上させ、国の推計人口は社人研推計の+18%としています。
県においては、出生率、社会増ともに向上させ、県の推計人口は社人研推計の+20%としています。

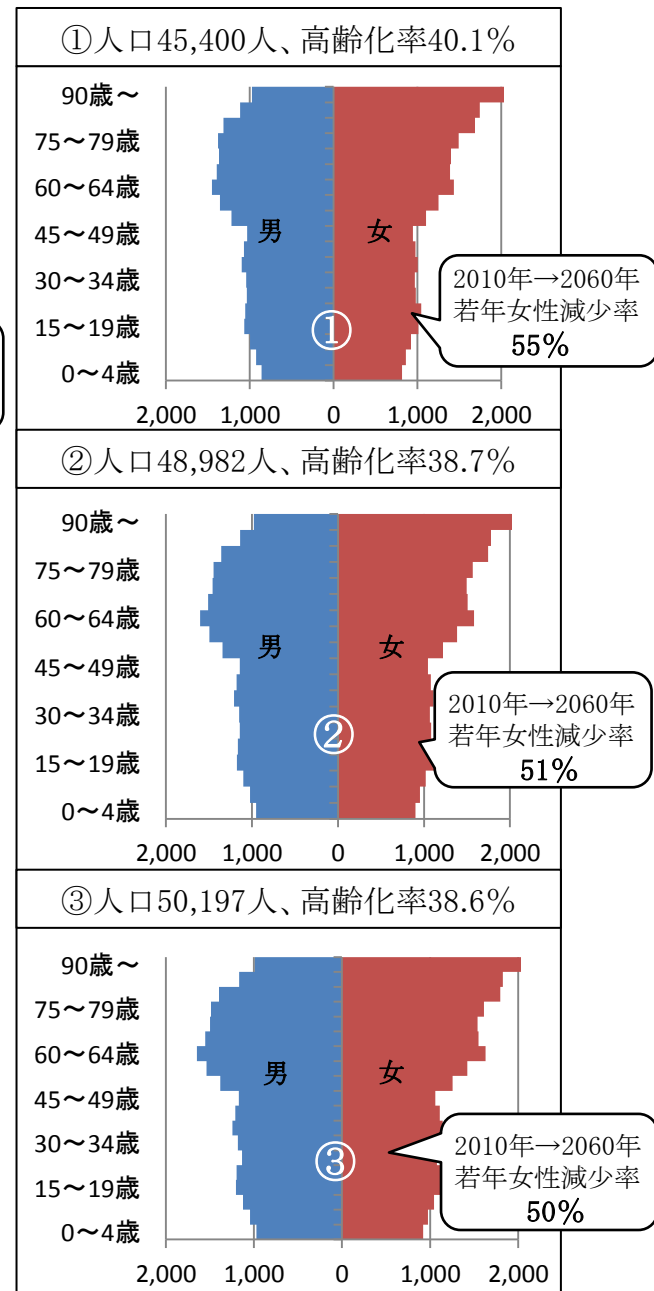
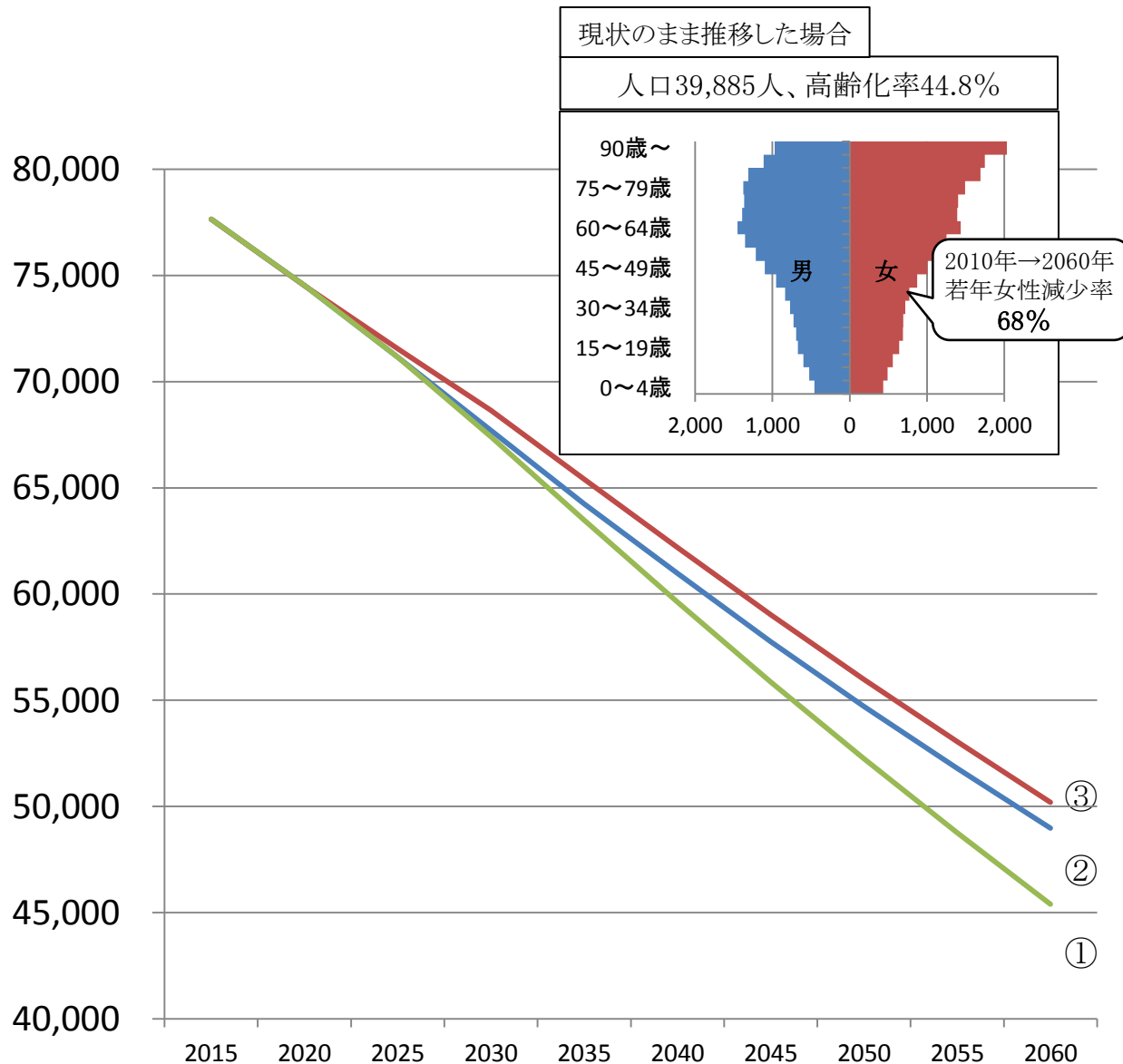
三木市においては、出生率、若者の社会増を向上させ、世代間の人口バランスを改善することを重視し、次の3つのケースを想定しています。

- ① 出生率を県目標に遅れること5年2040年に1.8まで改善し、社会減を現在の半分以下に改善した場合
- ② 出生率については①と同様とし、社会減を県目標より遅れること22年後2040年に±0.0%に改善した場合
- ③ 出生率については①と同様とし、社会減を県目標より遅れること12年後2030年に±0.0%に改善した場合

国や県をふまえた三木の総人口の考え方

	出生率(人)	社会増減率	総人口(2060年)
国	2010年 1.43 2020年 1.6 2030年 1.8 2040年 2.07		社人研推計 8,674万人 ↓ 目標 10,194万人 (+18%)
兵庫県	2010年 1.42 2020年 1.57 2035年 1.8 2050年 2.0	2010年 △0.05% (△2,643人) 2018年 ±0.0%	社人研推計 373万人 ↓ 目標 448万人 (+20%)
三木市	2010年 1.15	2010年 △0.47% (△384人)	社人研推計 39,885人
ケース①	2040年 1.8	2040年 △0.2% (△119人)	45,400人(+14%)
ケース②	2040年 1.8	2040年 ±0.0%	48,982人(+23%)
ケース③	2040年 1.8	2030年 ±0.0%	50,197人(+25%)

⑤3つのケース①～③のグラフ比較



(3)「総合戦略」をふまえて想定した2060年の三木市の総人口

考え方

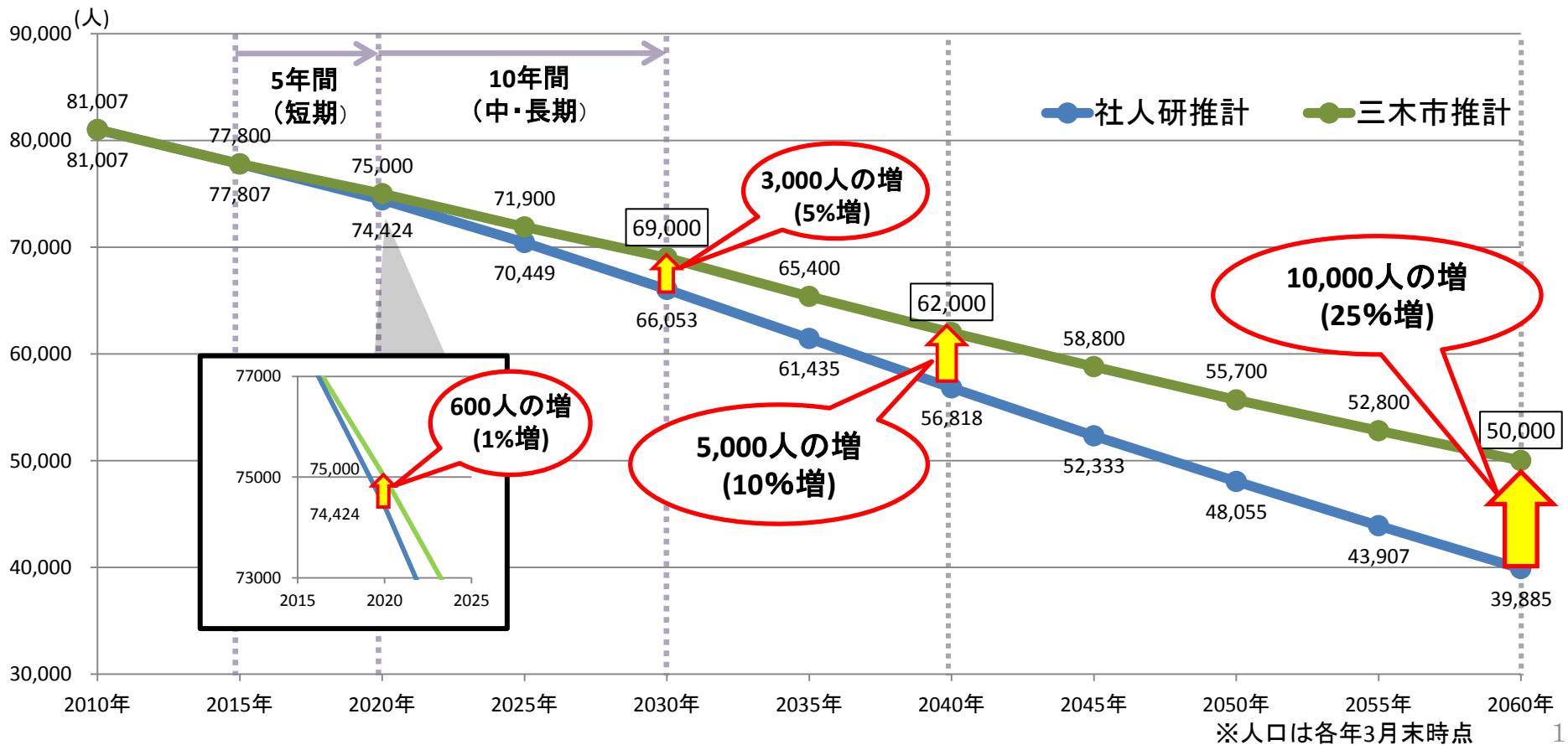
1. 兵庫県の人口ビジョンが、国立社会保障・人口問題研究所推計の120%を見込んでいること。
 - ・三木市に換算すると、約40,000人 $\times$ 1.2＝約48,000人
2. 都市としてのサービス水準を維持するためには、人口規模が5万人以上必要であること。
 - ・国土交通省試算によると、次にかかげるサービス施設の立地確率が50%以上となる場合はおおむね人口5万人以上としていること。
(サービス施設の例:ショッピングセンター、興行場、フィットネスクラブ、博物館・美術館、有料老人ホーム、インターネット付随サービス業、弁護士事務所)
3. 地方自治法第8条で定める市となるべき人口要件が5万人であること。
 - ・市としての行政サービスを維持していくために、総人口が5万人の維持を目標。



三木市においては、生活の質と暮らしを守るために、2060年において5万人の人口維持を目標とします。

(参考)2060年までの人口予測

2060年に目標人口5万人とするために社人研推計と総合戦略による将来人口を各節目ごとに比較すると、2020年に600人(1%)増、2030年に3,000人(5%)増、2040年に5,000人(10%)増、2060年に10,000人(25%)増となります。



3.総合戦略

(1)基本方針

- ①「三木市人口ビジョン」の実現に向けて、次の方向で、総花的な事業展開とはせずに、三木の地域資源を活用することなど、重点的・戦略的に絞り込み、三木市の特性を活かした施策を展開していくこととする。
- ②短期的には、人口の社会減をくいとめる施策を打ち出すとともに、自然増のタネをまく。国においては、総合戦略として求められている期間は5か年(2015年4月～2020年3月)としているが、三木市においては5か年では達成できないものがあることから、さらに10か年の中・長期計画を加え、15か年計画(2015年4月～2030年3月)とするなかで自然増をも促す施策を実施していく。

(2)コンセプト

①「まち・ひと・しごと」づくりの“しごと”の創出に重点

雇用の確保により、人を呼び込み、若年世代を増やす。

若年世代が増えることで、将来を担う子どもも増え、人口の維持につながるとともに、まちが活力を取り戻し、ひいては雇用の安定にもつながる。

こうした正のスパイラル(好循環)を成し遂げるため、雇用の創出を第一義とする。

②民間主導による事業の推進

- ・民間活力を活かし、民間主導により事業を展開する。
- ・公民連携、地域間連携、政策間連携など、従来の枠組みにとらわれない新たな切り口で事業を進めていく。

③既存ストックの活用

基本的には、これまで公民が築いてきた既存のストック(資源)の利活用を図り、新たなモノとの連携や融合により活性化を図る。

(3) 5つの重点施策

①高速道路を活用したまちの活性化

高速道路網を利用して、大阪、阪神間などをターゲットとして人々を呼び込んでいくとともに、広域的に人や物流網を活かした商品と呼び込める魅力ある商業施設を誘致することにより、交流人口の増加やその施設での雇用を創出するとともに、新たに市内への人の流れを作りまちの活性化を図ります。

ア.現状と課題

大都市に近く優れた高速道路網があるとともに、東西南北に走る道路網があり通行量も多いにもかかわらず、その優位性をまちの活性化に活かせていない。

イ.課題解決のためのコンセプト

○高速道路網を利用して人を呼び込む

- ・大阪、阪神間などから広域的に人や物と呼び込める商業施設を誘致する
- ・三木の特産「三木金物」を活用し、三木の伝統技術をPRすることにより、金物産業の振興を図る。



○雇用を作る

交流人口の増加やその施設での雇用を創出することにより交流人口から定住人口へつなげる

○市内への人の流れをつくる

既存施設の棲み分けもさることながら、新たな高速道路利用者を既存の飲食店や商業施設への流れをつくる

ウ.目標

大型商業施設を誘致することで人の流れを
まち全体に広げるにぎわいのまちづくり

②グリーンピア三木を活用したCCRC

近隣大学や病院と連携した教育・医療のほか、地域資源を活用した継続的なサービスや介護予防により、高齢者に配慮したまちづくりを進めます。さらに、高齢者の「役割」「居場所」「生きがい」の場として、農業体験や6次産業化による農業振興に結び付けます。

ア.現状と課題

アクティブシニアが健康時から終末期まで段階的なケアを受けながら、安心して老後を過ごせる体制が十分ではなく、合わせて生きがいを持てるような学びや、地域活動の参画の機会の確保も十分ではない。

イ.課題解決のためのコンセプト

○グリーンピア三木の活用

- ・自然豊かで広大な敷地を活かしたシニアビレッジ構想の推進、併せて宿泊、温泉、運動施設などを活用したスポーツツーリズムを推進する
- ・地産地消の推進や農業の6次産業化、山田錦などを活用した「農」のテーマパークによる人々との交流や体験、生きがいをつくる
- ・国の機関として(仮称)防災庁等を誘致

○元気な高齢者の呼び込み

元気な高齢者を呼び込むため培われた経験を活かして、働き、学び、地域活動へ参加することができる場となるCCRCを構築することで市外からの定住者を呼び込む

○若者の雇用の場の創出

介護、福祉施設整備による新たな雇用生み出す



ウ.目標

いつまでも生きがいを持って元気に住み続けられるまちづくり

③緑が丘の再生

高齢化が進む緑が丘地域において、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めるとともに、若者世帯の流入を促し、まちを再生します。

ア.現状と課題

戸建て住宅団地で高齢化率が39%。また空き家が増加し、まちの空洞化をおこしている。

イ.課題解決のためのコンセプト



○住まい・街並みの再生

駅前を含めた利便施設の集約や周辺地域での住宅の減築などにより、コンパクトなまちづくりに向けて区画整備事業等を推進する

○多世代の交流

高齢化世帯が集合住宅エリアに移動することにより、戸建て住宅エリアにできた新たなスペースに若者世代を呼び込むことでまちの活性化を図る

○生活利便のための基盤づくり

商店街の再開発による生活関連施設の集約 による住民の生活やニーズに対応した暮らしの機能を向上する



ウ.目標



まちの再生に合わせ多世代が共生でき、
生活支援サービスをあわせもつまちづくり

④エコタウンの推進

地球温暖化の進行に対し、三木市は全国の自治体として初の取組となる、ごみ処理の完全民間委託を活用することにより、エコタウン等における資源循環型社会と共生した低炭素地域づくりを進めることで、先進的な環境調和型のまちづくりを進めます。

ア.現状と課題

ごみ焼却施設の更新時期を控え、人口の減少に対応した可変的なごみ処理システムを構築する必要がある。

イ.課題解決のためのまちづくりのコンセプト

○地球にやさしい環境づくり

ものを大切に使いながら、ごみを減らしていく取組を推進する

○循環型産業モデルの創出(リサイクル)

新たな資源循環型産業モデルを創出する

○エコとともにエネルギーを生む取組

一般廃棄物のたい肥化、資源化、発電(バイオマス)などの実用化を推進する

日本初の全面民間委託型
ごみ処理システムの構築



ウ.目標

資源循環により環境にやさしく
エコとともにエネルギーを生むまちづくり

⑤神戸電鉄粟生線の活性化と存続

三木市を含む北播磨から神戸方面への主な移動手段となっている神戸電鉄粟生線の利用促進を図り、まちの魅力づくりに不可欠な公共交通網を存続させます。

ア.現状と課題

神戸電鉄粟生線は、少子高齢化や団塊世代の大量退職により通勤利用者が減少したことなどから、ピーク時から利用者が半減。広域的な連携により粟生線の活性化と存続を図る必要がある。

イ.課題解決のためのコンセプト

○駅を中心としたまちづくり

単なる駅前周辺整備にとどまらず、駅周辺に若者や子育て世帯が居住できるまちづくりを推進することで、定住並びに神鉄粟生線の利用を促進する



○北播磨の他市町とも連携した広域的な取組

神鉄と接続するJRやバス路線との接続をより便利にすることなど沿線市(神戸市、小野市、三木市)のみならず、北播磨地域の3市1町(西脇市、加西市、加東市、多可町)との連携を密にしつつ、さらに広域行政体である県、また国をも巻き込んだ広域的な取組を推進する

○地域間ネットワークの構築

市民のさらなる神鉄粟生線を促進するため新たな公共交通網の策定に当たり市内各所の拠点を繋ぐ中で神鉄駅をハブとした地域間ネットワークを構築する



ウ.目標

広域的な交通ネットワークを維持、充実することで
魅力と活力のあるまちづくり

(4) 重点施策のスケジュール(案)

項目	短期5か年(2015年4月から2020年3月)	中・長期15か年(2020年4月～2030年3月)
①高速道路を活用したまちの活性化	集客施設の誘致	
②グリーンピア三木を活用したCCRC	特別養護老人ホーム 高齢者住宅	地域拠点型特養 CCRC
③緑が丘の再生	・商店街の再開発 ・システム開発 土地区画整理による住み替え	
④エコタウンの推進	モデル事業	2027年4月頃ごみ処理の完全民営化
⑤神戸電鉄粟生線の活性化と存続	現行支援フレーム 乗客増員施策	